

FFJ環境調査2014

“タンポポ調査”

第2弾「在来タンポポを探そう」

～ シロバナタンポポ・黄花系在来種、外来種 ～

日本学校農業クラブ連盟
環境調査評価委員会

1. FFJ環境調査の目的

今から15年程前、先輩方は考えた……

発表や競技ではなく、全国のクラブ員全員で参加できるものはないのか？



各県連へアンケートを実施

植生・大気・土壌・水質・酸性雨調査・ゴミゼロ・緑化活動等々



多くの意見をいただき日連で検討



日連約400単位クラブ、約9万クラブ員の 組織力を生かすことのできる調査



- ・クラブ員が安全に参加できること
- ・活動に多くの費用がかからない
- ・基本的に採取をせずに扱えるもの
- ・全国に分布すると思われるもの
- ・調査方法が平易なもの



平成11年度秋季代議員会で
「FFJ環境調査」の実施を決定。



目的

- ・身近な生物について調べ、それぞれの地方の自然の実態について認識を深める。
- ・指標的な種の分布を調べることにより地球環境の変化について考える。
- ・データを広く公表し、一人でも多くの人々が環境問題について考える材料を提供する。

2. FFJ環境調査のあゆみ

- ・平成12～13年度

 - タンポポ

- ・平成14～16年度

 - セイタカアワダチソウ・アキノキリンソウ

- ・平成17～19年度

 - アメリカセンダングサ・コセンダングサ・タウコギ

- ・平成20～22年度

 - クマゼミ・アブラゼミ・リュウキュウアブラゼミ

- ・平成23～25年度

 - ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ

 - ・リュウキュウツバメ

- ・平成26年度～ タンポポ

平成26年度「タンポポ調査」の目的

* 環境調査の趣旨とこれまでの歩みを尊重し、調査初代のテーマを再調査することで、15年前から今日までにどれほど外来種の分布や環境が変化してきたかを追求することがこのタンポポ調査最大の目的です。

* 共通のテーマに対し、全国9万人の仲間が、クラブ員としての自覚を持って活動すること。それが、この調査本来の目的です。身近なタンポポにも多くの種類があり、在来種と外来種の特徴や見分け方などに対しても興味を持って学習し、活動に参加してください。

3. 調査対象種について

* **タンポポ**（キク科の宿根草）

- (1) **外来種**: 全国に分布、主にセイヨウタンポポを指すが、それと在来種との雑種も外来種に含める
- (2) **在来種**: 全国に分布、カントウタンポポやカンサイタンポポなど品種も多数あるが、黄花系をまとめて在来種とする
- (3) **シロバナタンポポ**: 関東から九州に多く分布、花卉の白い在来種である

(1) 外来種

日本では北海道から九州までに分布



(2) 在来種

日本には北海道から九州まで分布



(3) シロバナタンポポ

日本には関東から九州までの地域に多く生息



4. 2014年度の調査要領

(1) 調査範囲(月日)

- 生活圏内や学校周辺を調査し、発見した場合は、花などの観察を行い、わかる範囲で住所や分類、周囲の環境などを記録します。
- 調査地域は生活圏、通学エリアなどを中心とし、山中など危険が予想される場所は各校の判断で除外して下さい。
- 調査期間は3月～7月とします。

(2) 調査活動で記録する内容

- * 個人調査票に従って観察・記録してください。
 - ・発見場所の住所(メッシュコード)
 - ・確認日
 - ・タンポポの種類(観察をして判断)
 - ・タンポポの生息状況
 - ・周りの環境 などを記録します。
- ・観察で気づいたことなどがあれば記入します。
(在来種については、写真が取れれば記録としての利用価値が高まります。)

5. 単位クラブで行うこと

(1) クラブ員への説明

県連、単位クラブ、授業等での説明。

(2) 調査時期の設定

地域によって差が見られるので、情報を得て確認

基本的に春先から7月末までの中で設定

(3) 調査場所の設定

調査範囲はできる限りで、通学路などの生活圏内

(4) 注意事項の確認

①この調査はクラブ員の皆さんが「可能な範囲内」行ってください。先生の注意を守り、特に次のことに留意しましょう。

- ・危険なところや立ち入り制限のある場所等での調査活動は行わない。
- ・できるだけ一人では行動しない。
(危機管理、調査の誤認防止)
- ・他人の土地に無断で入り込まない。他人のことを考えて調査する。

②この調査にあたっては、タンポポの生態に配慮して下さい。

・タンポポを傷つけないように十分注意して、調査してください。

③種の見分けや確認できないものは、配布資料などと比較して判断し、判断のつかないものはデータに入れないでください。科学性と信頼性がなくなります。

④できれば野帳を持参し、周囲の自然をいろいろ記録することが大切です。

(5) 調査に使う資料の確認

①FFJ環境踏査の手引き2014

②個人調査票

③タンポポの見分け方資料

(各単位クラブの判断で資料を活用)

(6) 単位クラブのデータをまとめ、事務局校へ送付

6. 県連事務局校で行うこと

(1) 単位クラブへのデータの送付と説明・共通認識

- ・提出期限の設定と連絡

(2) 調査結果の回収・集計・入力

(3) 県連盟のまとめ・考察を記入

- ・入力方法、提出様式については春季代議員会で報告

(4) 日連事務局へ送付

7. データ集計・分析の流れ

単位クラブ

県連事務局校

日連・常任理事

クラブ員から
寄せられた
データを集計

単位クラブか
ら寄せられた
データを集計

県連から寄せ
られたデータ
を集計

分布図を作成、各地域ごとの分析・考察

- ・報告書を作成して単位クラブへ郵送
- ・FFJホームページやリーダーシップに掲載
- ・全国大会や産業教育フェアで展示発表
- ・集計結果などを環境省へ提供・連携

最後に・・・

15年目を迎える環境調査、
初心にかえり2000年から実施した
「タンポポ調査」の第2弾
～在来タンポポを探そう～ に対し
多くのクラブ員による実践と協力をお
願いします。

日本学校農業クラブ連盟

環境調査評価委員会